

# 東環協ニュース

発行●東京都環境計量協議会

〒110-0016 東京都台東区台東1-14-11  
ヒロキビル ヒロエンジニアリング(株)内  
TEL (03) 5812-4111  
FAX (03) 3833-6674  
MAIL [toukankyo@car.ocn.ne.jp](mailto:toukankyo@car.ocn.ne.jp)  
URL <http://www.toukankyo.org>

★ 平成28年度 技術研修会報告

★ 新年のご挨拶

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| ・東京都環境計量協議会 会長      | 佐藤 隆    |
| ・東京都環境局 環境改善部長      | 松永 竜太 様 |
| ・(一社) 日本環境測定分析協会 会長 | 田中 正廣 様 |

★ 平成29年 賀詞交歓会報告

★ 関係機関・団体の動き

- ・首都圏環境計量協議会連絡会
- ・(一社) 神奈川県環境計量協議会
- ・(一社) 埼玉県環境計量協議会
- ・千葉県環境計量協会
- ・(一社) 日本環境測定分析協会

★ 東環協からのお知らせ

- ・平成28年度：行事終了のお知らせ
- ・平成29年度：今後の主要行事予定
- ・事務局からのお知らせ

## 平成 28 年度 技術研修会報告

本年度の技術研修会は、昨年度からの試みと同様、新年の賀詞交歓会と同一日の開催とさせていただきます「大気光化学反応の空気浄化手法への応用と促進酸化手法を併用した分解生成物の抑制」というテーマで埼玉大学大学院 理工学研究科 准教授の関口 和彦様からご講演頂きました。また、講演会終了後、この度、当協議会が(一財)あんしん財団のご紹介代理所となりました関係より本財団が提供している労働災害等の保証サポート内容について北東京支局 業務推進課 江刺家 晋様からご説明頂きました。

日 時 : 平成 29 年 1 月 25 日(水) 14 : 45～17 : 00  
場 所 : アルカディア市ヶ谷 4 階 「飛鳥」  
参加者 : 会員 21 社 29 名、協賛企業 3 社 7 名

### 東環協 佐藤会長の挨拶



挨拶する佐藤会長

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も東環協の事業活動にご協力の程、何卒よろしくお願い致します。本日の技術研修会は、新年最初の行事となりますが、本研修会は従来から若手スタッフの方々に対して、環境計量法を中心とする法令改正の動きや新しい環境測定技術や評価手法、さらには東京湾などの環境モニタリング調査の実態などをより一層理解して頂く事を目的に開催しておりまして、一昨年までは長年に渡り9月に開催しておりました。

また、この研修会後には、新春賀詞交歓会が開催されますが、こちらは会員の経営層を中心の新年行事として毎年開催して参りました。しかしながら、昨今における皆様の社内的な事情を伺いますと、若手社員と経営層が同席する機会が相対的に減少していると伺っております。それは当協議会が今年で40周年を迎える通り、業界全体が成熟期に入ったと言えます。すなわち、同協議会が設立された当時は、社員も若い経営層も若い時代でありました。なので、各社共に経営トップ層を中心にして、典型7公害に関する測定手法について、沢山ディスカッションを重ねて切磋琢磨されてきたと思います。

しかし、現在は一見すると、各測定手法が確立されつつあるため、そうした社内的なコミュニケーションが減少している風潮があるように思います。そこで、当会では若手と経営層の交流の機会になればと思い、昨年より賀詞交歓会の前に技術研修会を開催する事に致しました。今年はその2回目となります。昨年は、日環協の田中会長に「環境計量証明書の電子発行について」というテーマでご講演頂きました他、東京都産業技術研究センターの原田先生に「産技研の中小企業に対する支援の実態」というテーマで産技研の実務的な活動をご紹介頂きました。

そこで、今年の実務的な知識から学術的な知識に視点をおいてテーマを検討しました結果、埼玉大学大学院理工学研究科の関口和彦准教授に「大気光化学反応の空気浄化手法への応用と促進酸化手法を併用した分解生成物の抑制」というテーマでご講演頂く事にしました。

関口先生は、我々が日頃から興味ある大気汚染問題について、大変積極的に研究されている方です。どうぞ、この機会に学生に戻ったつもりになりまして、改めて、窒素酸化物やVOC物質の光化学反応から光触媒や超音波技術を駆使しての処理技術について知識を深めて頂き、皆様の環境測定技術者としてのスキルが広がれば主催者として幸いです。

誠に簡単ですが、開催の挨拶とさせていただきます。

#### 1. 講演 (14:50~16:20)

演題：「大気光化学反応の空気浄化手法への応用と促進酸化手法を併用した分解生成物の抑制」

講師：国立大学法人 埼玉大学 大学院理工学研究科 准教授 関口 和彦 先生



講演する関口先生

さまざまな原因により発生する光化学スモッグ、その中でも特に VOC ガスからの二次生成粒子による影響が現在では大きな要因となっています。関口先生からは、この VOC ガスの都市大気における反応、二次粒子の生成メカニズム、また、それらを処理する技術について講演頂きました。

最近の研究によると、先進国の人々は一生の 80%以上を室内空間で生活していることから、屋外の汚染物質がどれだけ室内に入ってくるのか、また、室内で生成されたものにどれだけ暴露されるかが話題になっています。

光化学スモッグのスモッグとは、煙 (smoke) と霧 (fog) の合成語で、これまで原因とされてきた発生源からの直接排出粒子は様々な対策により減少してきており、現在は、VOC ガスからの二次生成粒子が主要因となっています。従来は、一酸化窒素とオゾンが反応することでオゾンの処理が進んでいましたが、大気中に VOC ガスが存在すると、反応速度の違いにより一酸化窒素と VOC ガスが反応してしまい、オゾンが反応できず溜まってしまい、その蓄積したオゾンが光化学オキシダントの主要物質になっています。また、オゾンは PM2.5 などの二次粒子の生成を促進させます。その二次粒子の生成や生成時の濃度、成長との関係について詳しくお話し頂きました。

また、二次生成粒子の処理技術については、各種フィルター (エアフィルターやケミカルフィルター) による粒子捕集方法やその欠点、促進酸化手法 (AOPs) と TiO<sub>2</sub> 光触媒、AOPs と短波長紫外光による TiO<sub>2</sub> 光触媒反応の促進、光触媒含有ミストによる VOC ガスの処理、AOPs を用いた活性ミストと VOC ガスの反応性、超音波ミストの浄化手法への応用に関するトピックスなどについてお話し頂きました。

今後の展望として、反応の見地から見た超音波の最適周波数 (分解と霧化) の利用法、VOC と反応活性種の接触確立を高める反応器の検討、活性ミスト技術の応用範囲の検討、可視光応答型光触媒の利用可能性等についてのお話を頂き、ご講演は終了しました。

ご講演は、かなり高度な内容でしたが、出席者から質問も出るなど参加者全員が新たな認識を深めることができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

ご講演、ありがとうございました。

## 2. お知らせ (16:30~16:50)

一般財団法人 あんしん財団からのご案内

内 容 : 「経営と働く人を、守る、支える会員制度についてのご案内」

説明者 : 一般財団法人 あんしん財団 北東京支局 業務推進課 江刺家 晋 氏



説明する江刺家氏

関口先生の技術分野のご講演終了後、賀詞交歓会までのわずかな時間を利用し、一般財団法人あんしん財団の保証サービス内容について、北東京支局 業務推進課の江刺家氏よりご説明頂きました。同財団は、厚生労働省より特定保険業の認可を受けた一般財団法人で、当協議会が紹介代理所の委託契約を締結しています。

「ケガの保証」、「福利厚生」、「労働災害防止」、「使用者賠償責任保険制度」の4つのあんしんで、万全なサポートをしているとのことで、それぞれの内容についてご説明頂きました。

ご興味のある方は、事務局にお問い合わせ頂き、資料請求されますようお願い致します。



案内版



受付の様子



ご講演の様子

**あんしん財団からの大切なご案内**  
**事業経営の安心に、強い味方!**

経営と働く人を  
**守る・支える**  
**会員制度**

**あんしん財団**は  
 お一人様 **2,000円**  
1ヶ月あたり

**ケガの補償 福利厚生 労災災害防止 使用業務賠償保障**

**「4つのあんしん」で万全サポート!**  
あんしん財団は、厚生労働省より特定保険業の認可を受けた一般社団法人です。

**1 ケガの補償** (任意加入)

業務上はもちろん  
**業務外のケガも補償**

ケガによる  
**2,000万円** (限度額1,000万円)

●ケガによる入院・通院・療養・住居も補償

**2 福利厚生** (任意加入)

働く人の健康管理や  
**活カアップをサポート**

- 人間ドックや定期健康診断の費用を補助
- 健康診断・WEB活カアップの費用を補助
- 経営や暮らしに役立つ各種相談サービス

**3 労災災害防止** (任意加入)

安全な職場作りで、  
**働く人を事故から守る**

●安全衛生設備等の設置費用を補助

●ヘルメット、靴、安全服、作業用保護手袋、安全帽、保護眼鏡など

**4 使用業務賠償責任補償** (任意加入)

労災事故の際の  
**使用者の賠償責任を補償**

支払限度額(1会員事業所単位)

「加入者 10名」  
**3億円 / 事故 10億円**

※10名以上の加入者には、10名以上の賠償責任額を保障いたします。

詳しい資料のご請求やご加入のご希望については、裏面をご確認ください。▶▶▶

「経営」を守る・支える  
**あんしん財団**

加入費  
**100円**  
1ヶ月あたり

53万円/年

※10名以上の加入者には、10名以上の賠償責任額を保障いたします。  
※10名以上の加入者には、10名以上の賠償責任額を保障いたします。  
※10名以上の加入者には、10名以上の賠償責任額を保障いたします。

**資料請求方法のご案内**

詳しい資料やご説明を希望される場合は、

- ① お電話いただくか、  
 ② 資料請求票に必要事項をご記入いただき FAX

をお願いいたします。

**ご 連 絡 先**

あんしん財団紹介代理店  
**東京都環境計量協議会 (担当 竹田)**

〒110-0018  
 東京都千代田区台東 1-14-11 セゾビル4F

**TEL 03-5812-4111**

**FAX 03-3833-6674**

\*必ずお電話をのぞいて、質問ください。

※ 当協議会はあんしん財団と紹介契約を締結しています。  
(あんしん財団の保険事業を行う代理店ではありません)

※ 制度のご説明と加入手続きは、あんしん財団の職員が行いません。

※ ご提供いただく個人情報、あんしん財団への加入申込先の紹介に利用いたします。また当協議会が責任を持って管理いたします。

資料請求票	
フリガナ	
事業所名	
フリガナ	
代表者名	役 職
姓 名	
(※過去・申請・所轄警察及び消防署に申し立ては、東京都環境計量協議会(あんしん財団)の 承認・承認がないため、取扱いできません。ご了承ください。)	
連絡先	【電話番号】 <small>〒連絡希望の時間帯 一 午前・午後 二 日中 三 午前・午後 四 日中</small>
ご用件	<input type="checkbox"/> 資料請求 <input type="checkbox"/> 詳しい説明を聞きたい <input type="checkbox"/> 加入希望
業 種	1. 建設 2. 電気・ガス・水道 3. 製造・加工 4. 販売 5. 運輸・運送 6. サービス業 7. その他 ( )

TEL : 03(5812)4111 FAX : 03(3833)6674

《あんしん財団の案内パンフレット》

## 平成28年度 技術研修会 次第

日 時： 平成29年1月25日（水） 14時45分～17時00分  
(受付開始：14時15分)

会 場： アルカディア市ヶ谷 4階 「飛鳥」  
東京都千代田区九段北4丁目2-25 TEL：03-3261-9921

挨 拶： 東京都環境計量協議会 会長 佐藤 隆

講 演： 14:50～16:20  
「大気光化学反応の空気浄化手法への応用と促進酸化手法を併用した分解生成物の抑制」  
国立大学法人 埼玉大学 大学院理工学研究科 准教授 関口 和彦 様

休 憩： 16:20～16:30

お知らせ： 16:30～16:50  
「経営と働く人を、守る・支える会員制度のご案内」  
一般財団法人あんしん財団 北東京支局 業務推進課 江刺家 晋 様

閉 会： 17:00



**平成28年度 技術研修会 参加者**

平成29年1月25日 於 アルカディア市ヶ谷 4階 「飛鳥」

No	会社名	氏名	備考
2	いであ (株)		
3	(株)オオスミ		
4	(株)化学分析コンサルタント		
6	(株)環境管理センター		
7	(株)環境技研 (杉並)		
8	(株)環境技研 (板橋)		
9	(株)環境技術研究所		
10	新日本環境調査(株)		
12	(株)総合環境分析		
13	ダイヤアクアソリューションズ (株)		
14	帝人エコサイエンス (株)		
15	(一財)東海技術センター		
17	(株)東京環境測定センター		
18	(株)日新環境調査センター		
19	(株)日本シーシーエル		
20	(株)日本総合科学		
21	(株)日本分析		
24	ヒロエンジニアリング (株)		
27	(株)分析センター		
28	環境工学研究所		賛助
29	(株)アイティ環境		委員

21社 29名

**協賛企業**

No	会社名	氏名	備考
3	高圧ガス工業組合(株)		賛助
5	松田産業(株)		賛助
7	(一財)あんしん財団		

3社 7名

合計 36名

## 新年のご挨拶

### 『新年挨拶』

東京都環境計量協議会  
会 長 佐藤 隆



佐藤会長

会長の佐藤でございます。皆様、1月も早、月末時期となつてしまいましたが、本会は新春賀詞交歓会でありますので、改めまして新年明けましておめでとうございます。本日はご多用のところ、来賓として、東京都環境局環境改善部長 松永竜太様、計画課長 宗野喜志様、また東京都計量検定所検査課長 山田敦久様、それと日頃より共に同業界において連携頂いている日本環境測定分析協会 田中正廣会長、関東支部長 津上昌平様にご来賓頂いております他、当協議会の正会員企業の方々と我々の業務を支えて頂いている分析機器メーカー等賛助会員の方々にご参集頂きまして誠に有難うございます。

さて、今年は酉年ということで、新年より各経済界のトップの方々のスピーチを伺いますと、必ず鳥のように大きく羽ばたきたい！と述べておりますが、我々の仕事は羽ばたくというより縁の下から支える仕事でありますので、あえて私は、羽ばたくというよりも皆と共に本業の地固めをしていきたいと思っております。具体的には、先週発表されました豊洲市場の土壌汚染問題を筆頭に環境基準値、今回の測定値とかいった言葉に世論が反応しております。私は、会長を拝命させて頂いた3年前より我々が扱う化学量は物理量と違って世界的にトレーサブルが取り難い分野と申し上げてきました。すなわち、物理量である 1 kg、1 A、1 mは、世界的に統一された検定法でトレーサブルがとれています。しかし、化学量については大筋のところでは公定法として定まっていますが、実際のところ、試料の採取方法や混合方法、前処理方法や分析手法、標準試料の違いによって、分析値が影響を受ける事をここにお集まりの皆様は理解されていると思いません。プロの料理人のレシピで素人が作ってもプロの味にはならないのと同じような事ですが、なかなか理解頂けていない現状があります。化学量を評価する場合、いつ、だれが（専門家か否か）、どこで、どのように採取したものを、どのような機器と標準試料で分析したかを明らかにして議論しないと、真に比較する事は危険な要素も潜んでいる事を認識して頂かなければいけないと思います。そこで、こうした化学分析の難しい面を理解頂く広報活動等を計量のひろば等で周知して行きたいと思っております。

最後に、皆様ご存知のように本年3月で我が東京都環境計量協議会は40周年の節目を迎えます。それに伴いまして、本年6月1日に霞が関ビル東海大学校友会館で第40回通常総会と40周年記念式典&懇親会パーティーを開催する予定です。主催者と致しまして、40年の節目にふさわしい盛大なパーティーにしたいと思っておりますので、是非とも皆様、手帳の6月1日に東環協40周年と記帳頂きまして、万難を排して、会員の方々は総会よりご出席頂きますようお願い申し上げます。当日は本日お越しの来賓の方々を始め、千葉、埼玉、神奈川といった周辺県単の役員の皆様を招く予定でおりますので、ホスト側として一人でも多くの会員様に参集頂きますようお願い致します。簡単ですが、新年の挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



## 『新年挨拶』

東京都環境局 環境改善部長  
松永 竜太 様



松永 竜太 様

只今紹介いただきました東京都環境局環境改善部長の松永でございます。新年あけましておめでとうございます。

本日、かくも盛大に東京都環境計量協会の賀詞交歓会が開催されますことをお喜び申し上げます。また、本日お招き頂きまして誠に有難うございます。

私ども環境改善部の仕事は、都民が生活する環境の改善、すなわち PM2.5 などの大気環境の問題を始め、航空機騒音から子供の声に至る騒音問題、また、土壌、地下水汚染の問題などもございまして、環境計量協会の会員の皆様方には各種の計測、分析業務を通じまして日頃より大変お世話になっております。あらためてここで御礼を申し上げさせていただきます。

大気環境をひとつとりましても 1,300 万都民一人ひとりの健康的な生活に直結するわけでございます。そのため東京都は、さらなる環境改善をめざして取組みを進めて来ておりますが、その土台となりますのは実態の正確な把握でございます。課題を見つけて対策を講じ、その結果を分析、評価をするという改善のサイクルにおきまして信頼性を持った測定、分析結果は欠かせないものとなっております。

例えば、2000 年頃までは、都内の大気環境は、SPM あるいは NOx につきましても一向に良くならない状態で行ってまいりましたが、その間に積み上げたデータと分析結果が現状を突破するディーゼル車規制につながったということで、東京の大気環境は大幅に改善したものでございます。

さて、2017 年を迎えまして、いよいよ東京オリンピック、パラリンピック大会まであと 3 年となりました。その中で、東京都では小池都政になって初めての中期計画であります実行プランを昨年の暮れに作成したところでございます。

大気環境の改善につきましては、2020 年までに光化学スモッグの注意報をゼロに、また、2024 年までに PM2.5 の環境基準を達成するという高い目標を掲げております。そのため、原因物質であります VOC であるとか NOx の削減を精力的に今後さらに進めて行く所存でございます。そうした中におきまして、また、協会の皆様にもいろいろご協力をいただくことも多いと思っておりますのであらためてよろしくお願い致します。

最後になりますが、本年が東京都環境計量協会及び会員事業者の皆様方にとりましてさらなる飛躍の年となりますよう祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。



会場風景 I

## 『新年挨拶』

(一社)日本環境測定分析協会  
会 長 田中 正廣 様



田中会長

皆さん、こんばんは。

いつも私がここに立つと皆さん必ず、早いとこビールに手を出したいという顔をされていますので話を短くしようと思っておりますが、少しだけコマーシャルを含めて話をさせて下さい。

何を話すかということ、話題としては、2018年1キログラム原器が、フランスにありますけれども変わります、唯一残っていた人工基準器なんですけれど、おそらく国際会議でこれが変わるということがございますがこのようなアカデミックな話は、

産総研とかそのような機関に任せておけば良いかと思っておりますので、ここでは二つだけ話をさせて下さい。

一つは、日環協のコマーシャルになりますけれども、明日、秋葉原のUDXビルで、エリックチャップフィールド先生、この先生はISO本部の良く私どもが分析で用いているISO22262、いわゆるアスベスト分析検討委員会の議長をやられている先生で、日本に来るのは初めてですが、この方ともう1名、イギリスのアスベストの権威の先生による2人の講演会を1時から行います。まだ余裕が有りますので参加可能です。今、113人掛けで110名の予定でまだ15、16名の席の余裕が有ります。同時通訳付きで、17、18名は首都圏から行政の方も来ていただくということで非常にアカデミックな会です。同時に、両先生のご講演は、1日だけのこの講演会だけではもったいないので、もう一つ、28日、29日と土日ですけれども、今回で5回目となりますが、東工大大岡山キャンパスで、村山教授の研究室がずっとやっている石綿問題総合対策研究会(石問研)という研究会がありますが、そこで毎年、いろいろアスベストで問題になっている製造側の言い分、行政側の規制の問題、分析側の問題、被害者側、医療機関の意見など、どなたでも手を挙げれば20分間セッションできるという会で今年で5年目となるのですが、この研究会でもエリックチャップフィールド先生ともう一方のお話をさせていただくということで予定しています。日環協としては、普段は石問研の会には特に支援を実施していませんが、今回は、この先生のところだけは共催という形で支援させていただいています。そちらは、ホームページからもまだ申込みが出来ますし、当日でも申込みできます。大岡山キャンパスにおいて非会員の方6,000円、会員の方2,000円で聞くことができますので是非参加していただければというコマーシャルが1点です。

もう1点は、是非とも持って帰っていただきたい情報ですが、平成27年度から、およそ1年前からですが、厚生労働省が試験研究機関に対しても立入検査をしようという指導を強力に押し進めています、その検査事例の報告です。

いままでは、どちらかというと大量に健康リスクの有る粉じん作業の事業所、あるいは溶剤作業の事業所が対象となっていました、2年前から、私どもの分析、あるいは作業環境や試験研究機関ということも対象となっています。それから、製造業であっても研究所、検査部門に対しても内容を確認するという意味で監督署が立入り検査を始めています。実際に、私どものいる三重県では初めて立入りが行われまして、40年間でいっぺんに立入が有ったのは昨年12月の私どもの東海テクノへの立入検査でした。

内容は、当然、製造業と同じ立入検査ですから残業時間の実態把握です。具体的には、ある月の全職員の帳票の確認が行われます。勤労関係と実際のタイムカードのリストがあればタイムカードとの突き合せが行われます。それから、一般の健康診断と、私ども分析会社ですから特殊健診の実施状況、また、当然ですが有機溶剤も使っていますので作業環境調査の実施記録、それから、対象になっているかいないでいろいろありますが、6月1日からはじまりました(安全衛生の)リスクアセスメントの事業所に対する検査も有りまして、これもじっくり半日を掛けて調査を実施しています。

残業時間については、選定した月に1人80時間、1人でも80時間を超えた事例があれば改善の報告書の提出を求められます。年間平均で20時間であっても選定した月の1ヶ月で超えていけばダメということになります。そのような立入検査が行われています。

これは中部地区の報告ですが、静岡県でも行われましたし、四日市のコンビナート会社からも中央研究所に立入検査が入ったという報告が有りました。今日、ここに来ておられる会社の方には、役員の方もおられますし、分析部署の方もいらっしゃると思いますが、来年、もしくは再来年、おそらくそのような立入調査が各都道府県において行われるであろうということについてご報告させていただきました。

話が長くなりましたが、このように皆様の前でご挨拶させていただくのは今日で最後になりますが、これからも日環協をどうぞよろしくお願い致します。



挨拶をする田中会長



会場風景Ⅱ

## 平成 29 年 東環協賀詞交歓会報告

新年あけましておめでとうございます。賀詞交歓会につきましてご報告致します。本年の賀詞交歓会は、会員 30 社 57 名、来賓・協賛企業の方々も含め、総勢 70 名の皆様にご参加頂きました。

日 時 : 平成 29 年 1 月 25 日 (水) 17:30~19:30  
場 所 : アルカディア市ヶ谷 5 階 「穂高」

初めに、当協議会の佐藤会長より挨拶、来賓の皆様の紹介が行われました。

今年の賀詞交歓会では来賓として、東京都環境局より環境改善部長 松永竜太様、同部・計画課長 宗野喜志様、東京都生活文化局計量検定所検査課長 山田敦久様、(一社)日本環境測定分析協会 会長 田中正廣様、同協会・関東支部長 津上昌平様にご参加頂きました。

来賓からの挨拶と致しまして、松永部長、山田課長、田中会長より、それぞれご挨拶を頂戴致しました。

来賓からの激励及びご支援等のお言葉を頂き、お待ちかねの乾杯となり、津上関東支部長より乾杯のご発声を頂きました。酉年である今年一年が良い年となるよう祈りを込めてビールを飲み干し、懇親会が始まりました。沢山のご馳走を前に、お酒を酌み交わし、名刺交換等が行われていました。



乾杯の挨拶をする津上関東支部長

なごやかな会場の雰囲気により、お酒も進み、皆さん積極的にお話されていました。初めて参加した方は他企業の方に声を掛けるのは勇気が要りますが、賀詞交歓会の前に開催された技術研修会から参加されていた方々は、発表内容についての意見交換、共通する研究テーマ等について活発に情報交換等をする様子も見受けられました。毎年参加頂いている方々からは、近況確認の話題も多く、恒例の挨拶風景が多く見られました。



歓談が続き緊張も解けて会話が盛り上がったところで新会員の紹介となり、正会員として(一財)東海技術センター様、賛助会員として高圧ガス工業(株)様よりご挨拶を頂きました。



(一財)東海技術センター



高圧ガス工業(株)

次に、賛助会員のアピールタイムとなりました。司会者のアナウンスにより環境工学研究所様、(株)グレイス様、(株)島津製作所様、ビーエルテック(株)様、メルク(株)様に壇上に上がって頂き、各社一言ずつ企業紹介、製品のPR等をして頂きました。



環境工学研究所



(株)グレイス



(株)島津製作所



ビーエルテック(株)



メルク(株)

続いて、協賛企業のアピールタイムとなりました。賛助会員のご紹介と同様に高圧ガス工業(株)様、松田産業(株)様、全環境企業年金基金様、(一財)あんしん財団様よりご挨拶頂きました。



高圧ガス工業(株)



松田産業(株)



全環境企業年金基金



(一財)あんしん財団

各社様のご紹介、ご挨拶に続き恒例のビンゴ大会です。今年も毎年大好評の「お米券！」20枚を始め、その他様々な賞品が用意されており、参加者全員の注目の中、スタート致しました。

ビンゴゲーム司会者2名(久木元様、笹島様)の進行のもと、ようやく記念すべき1番目のビンゴ成立となった後は続々とビンゴとなった方々が押し寄せ、賞品の受け渡し場所に行列ができ、大いに盛り上がりを見せていました。当協議会のビンゴ大会の良いところは、参加者全員に賞品が行き渡るだけでなく、ビンゴ一番乗りでなくても1等賞と同じ「お米券！」を手にするチャンスがあることです。なかなかビンゴとならなかった方も最後にはビンゴとなり賞品を受け取りました。残りの賞品も有り、全員参加のじゃんけん大会が行われ幸運にも2つ目の賞品を貰われた方もいらっしゃいました。



番号を読み上げるビンゴ進行役



ビンゴゲームに熱中する参加者

大盛況のうちに、この賀詞交歓会の最大のイベントであるビンゴ大会も無事に終了しました。



五十嵐副会長による中締め

楽しく過ごした賀詞交歓会も閉会の時間を迎え、五十嵐副会長により「三本締め」で締めて頂き、お開きとなりました。

ご参集頂いた皆様、ありがとうございました。

会員の皆様におかれましては、酉年に因んで、大いに羽ばたく飛躍の年になりますことを祈念致しますと共に、幸多き実りの年となりますよう、役員一同、心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



平成 29 年 東環協賀詞交歓会 次第

(敬称略)

- 総合司会 東京都環境計量協議会 理事 斉藤 徹
1. 開 会 17 : 30
  2. 開会挨拶  
東京都環境計量協議会 会 長 佐藤 隆
  3. 招待者紹介
  4. 来賓挨拶  
東京都環境局環境改善部長 松永 竜太 様  
東京都生活文化局計量検定所 検査課長 山田 敦久 様  
(一社)日本環境測定分析協会 会 長 田中 正廣 様
  5. 乾 杯 17 : 50  
(一社)日本環境測定分析協会 関東支部長 津上 昌平 様
  6. 新会員紹介 18 : 20
    - ・ (一財)東海技術センター (正会員)
    - ・ 高圧ガス工業(株) (賛助会員)
  7. 賛助会員紹介 18 : 25
    - ・ 環境工学研究所
    - ・ (株)グレイス
    - ・ (株)島津製作所
    - ・ ビーエルテック(株)
    - ・ メルク(株)
  8. 協賛企業紹介 18 : 35
    - ・ 高圧ガス工業(株)
    - ・ 松田産業(株)
    - ・ 全環境企業年金基金
    - ・ (一財)あんしん財団
  9. ビンゴ大会 18 : 40
  10. 中 締 め 19 : 30  
東京都環境計量協議会 副会長 五十嵐 鋼

平成29年 東環協 賀詞交歓会出席者名簿

平成29年1月25日(水)

於 アルカディア市ヶ谷 5階「穂高」

**来 賓**

東京都環境局	環境改善部長	松永 竜太	様
東京都環境局	環境改善部 計画課長	宗野 喜志	様
東京都生活文化局計量検定所	検査課長	山田 敦久	様
(一社)日本環境測定分析協会	会 長	田中 正廣	様
(一社)日本環境測定分析協会	関東支部長	津上 昌平	様

**会 員**

No	会 社 名	氏 名	備 考
3	いであ(株)		
5	(株)オオスミ		
7	(株)化学分析コンサルタント		
10	(株)環境管理センター		
11	(株)環境技研 (杉並)		
13	(株)環境技研 (板橋)		
15	(株)環境技術研究所		
17	(株)環境総合リサーチ		
19	(株)クレアテラ		
21	(株)島津テクノリサーチ		
23	新日本環境調査(株)		
27	(株)総合環境分析		
29	帝人エコ・サイエンス(株)		
30	(一財)東海技術センター		
33	(株)東京環境測定センター		
34	(株)トーニチコンサルタント		
36	(株)日新環境調査センター		
37	(株)日本公害管理センター		
38	(株)日本シーシーエル		
39	(株)日本総合科学		
40	(株)日本分析		
43	ヒロエンジニアリング(株)		

47	(株)分析センター		
48	ムラタ計測器サービス(株)		
49	環境工学研究所		賛助
50	(株)グレイス		賛助
51	(株)島津製作所		賛助
53	ビーエルテック(株)		賛助
56	メルク(株)		賛助
57	(株)アイティ環境		委員

30社 57名

### 協賛企業

No	会社名	氏名	備考
3	高圧ガス工業(株)		賛助
5	松田産業(株)		賛助
7	(一財)あんしん財団		
8	全環境企業年金基金		

4社 8名

来賓 5名

合計 70名



受付の様子



総合司会の斉藤理事



会場風景Ⅲ



ビンゴ景品担当

## 関係機関・団体の動き

平成 29 年 3 月現在で、既に実施または今後予定されている関係機関及び団体の動きは、以下のとおりです。

なお、首都圏環境計量協議会連絡会による 2 月 10 日開催の平成 28 年度環境計量証明事業者団体合同研修会の「参加報告」は次頁の添付資料のとおりです。

- 首都圏環境計量協議会連絡会
  - ・平成 28 年度 環境計量証明事業者団体合同研修会  
2 月 10 日 東京国際フォーラム
  
- (一社)神奈川県環境計量協議会
  - ・第 42 回通常総会  
5 月 24 日 かながわ労働プラザ
  
- (一社)埼玉県環境計量協議会
  - ・第 41 回通常総会  
5 月 26 日 未定
  
- 千葉県環境計量協会
  - ・通常総会  
4 月 21 日 プラザ菜の花
  
- (一社)日本環境測定分析協会
  - ・通常社員総会  
5 月 29 日 タワーホール船堀

## 首都圏環境計量協議会連絡会主催

### 平成28年度 環境計量証明事業団体合同研修会 参加報告

東京都環境計量協議会 首都圏環協連担当

東環協が所属する「首都圏環境計量協議会連絡会（首都圏環協連）」は東京、埼玉、神奈川、千葉の4都県で構成する今後の環境計量に係る諸問題を解決するために情報及び意見交換し、互いに研鑽するための任意団体です。

環境計量証明事業は、国民はもとより生態系も含めた環境の保全や健康被害の防止、そして「安全・安心」な暮らしを支えるために様々な判断（政策や事業）に必要な事業です。提供する業務の成果品は、「測定値・分析値（データ）」といった「数値」ではあり、その値を証明するという「重い責任」を担った業務です。しかし、市場価格の一部には、低価格となり、JIS や関係法令で決められた公定法で行うには理解しがたいものがあります。業務の価格を、企業努力で下げることが当然のことですが、人件費や試薬や測定設備などの経費、そして利益を無視したともいえる「異常廉価」はゆがみを生じさせる恐れがあります。なかには、従来価格の半分もしくは3分の1（それ以上も）になった事例もあり、減額で売上げが下がり、その分を埋めるために安価で受注するということが連鎖的に続いています。このような中で、働く従業員の仕事は倍増し、疲弊し、やがて若手の世代はこの業界から離れ、次世代の育成が遅れてしまい、やがては技術の継承が十分に行えずに、業務の成果品である「数値」の信頼性をゆるがす危惧が現実的に直面しています。

このような課題に直面し、首都圏環協連（平成28年度は埼環協が幹事担当）では、全国の県単組織と交流を続けてきました。互いの活動の情報交換を通じて、各県単の活動の参考にするために合同研修会を開催しました。このたびの研修会では、広島県環境計量証明事業協会で活躍されている 鷹村憲司 様を講師に迎え、広島市や広島県が導入した入札制度について講演を頂きました。また、従来から情報交換している県単組織等や北関東を含めた関東圏の県単、そして、（一社）日本環境分析測定協会（日環協）の田中正廣会長に参加していただき、熱い意見交換をしました。

#### <開催日・場所>

平成29年2月10日（金）13時～17時 東京国際フォーラム（東京都千代田区）

#### <プログラム>

第1部 『各県単の活動について』各参加県単、日環協 田中会長（日環協の活動）

第2部 講演『広島県・広島市の入札制度改革の取り組み』

広島県環境計量証明事業協会 鷹村 憲司 様（東和環境科学株式会社）

第3部 『意見交流会』

#### <参加団体>

- ・首都圏環協連（東京都環境計量協議会、（一社）神奈川県環境計量協議会、（一社）埼玉県環境計量協議会、千葉県環境計量協会）
- ・大阪環境測定分析事業者協会

- ・(一社) 愛知県環境測定分析協会
- ・(一社) 福島県環境測定・放射能計測協会
- ・(一社) 群馬県計量協会 環境分科会
- ・栃木県計量協会 環境計量証明部会
- ・茨城県環境分析協議会
- ・(一社) 日本環境測定分析協会

## 1. 県単報告

各県単で共通した課題は、「異常な廉価」であり、低価格競争がいまなお、見られることです。そのなかでも、環境部局による発注業務の入札制度のほとんどは、「最低価格」による競争入札であり、まだ『最低制限価格制度』の導入事例は少ないのが現状です。参加の各県単のほとんどが、設計価格を市場物価調査（主に建設物価調査会や経済調査会が発行するいわゆる物価本）を利用し、『最低制限価格制度』の導入の要望（書面や口頭など形式は様々）をしています。

地域に係らず共通していることが、発注部局の担当者は、環境計量証明事業はその専門性から「安くて品質が維持されている」といえるのか「安いから品質が維持されていない」なのか判断しにくく、悩ましい状況であることです。さらに、環境問題は、担当部局と環境計量証明事業者が連携して対応してきた歴史があり、書面で「要望書」を提出するといった行動には躊躇があるという考えも見られました。そのなかでも、土木部局の発注については、国土交通省が『最低制限価格制度』を導入している関係もあってか導入事例が多く、環境部局においては、神奈川県や広島県が既に導入しており、埼玉県の一部で導入予定と報告がありました。

その一方で、行政との連携を「協定」や「技術研鑽」といった活動で深め、地域貢献を目指した事業が多く見られました。協定では、災害時の協定、不法投棄の情報提供などがあり、これらの中には、この首都圏環協連の研修をきっかけに県単同士での情報交換を行い、協定に至った事例もありました。行政と連携した活動には、高校や自然環境保全活動への参加、計量の日イベント参加なども行われています。また、技術研鑽では、分析や測定の精度管理の研修や資格取得の支援、サンプリング研修、積算勉強会など様々な事業が紹介されました。

これらの情報交換の中で、入札制度の改革には、行政が近隣の動向に注視する例が多く、逆に東京都は全国から集中するために独自の部分があり、各地での活動が活発になり、情報の発信や共有が重要と感じました。また、災害協定では、地域内で協定しても大規模な災害時に対応できないことも想定され、広域協定も視野に入れる必要があります。

(参考)

横浜市：「浄化槽・貯水槽清掃業務」と「検査・測定業務」平成 27 年度より導入

広島市：水質、排出ガス等の調査・分析業務を対象に平成 26 年度より導入

広島県：水質、排出ガス等の調査・分析業務を対象に平成 28 年度より導入

## 2. 日環協の活動

日環協の田中会長の報告では、日環協の情報提供として、経済産業省の計量審議会が 5 年



ぶりに開催され計量法の一部改正が検討されていること、石綿分析の動向、労働安全衛生として化学物質のリスクアセスメントへの対応などについて紹介がありました。労働安全に関連しては、監督署の試験機関への立ち入りが平成 27 年より厳しくなり、多量の化学物質のリスクから少量であっても監督することになったとのことです。立入の際には、使用している化学物質や設備の管理記録、作業環境測定の結果などの書類が必要になるとのことです。さらに、月に 80 時間を超える残業者がいれば、改善計画書を求められるとのことです。

また、日環協の活動の中で、入札制度のアンケートを行う予定があり、県単でも活用してもらいたいと報告がありました。

意見交換の中では、日環協と県単活動の連携や最低制限価格制度を導入している事例の情報共有を求める意見がありました。

#### 労働監督署の立入に必要な情報

- ✓ 会社概要
- ✓ 使用している化学物質の安全データシート
- ✓ 化学物質の使用状況が分かる資料
- ✓ 使用している化学物質に係る局所排気装置の点検記録
- ✓ 作業環境測定関係の書類（過去 1 年分）
- ✓ 資格関係の書類
- ✓ 健康診断関係の書類（特殊検診含む）
- ✓ 安全衛生委員会の議事録
- ✓ リスクアセスメント関係の書類
- ※ 月に 80 時間を超える残業者がいれば、改善計画書を求められます。



研修会の様子

### 3. 講演『広島県・広島市の入札制度改革の取り組み』

第 2 部として、広島県環境計量証明事業協会 企画運営委員長の鷹村憲司様より、広島県や広島市で導入された入札制度について講演を頂きました。

講演のなかでは、段取りとして要望書だけでなく、業界を認知してもらうための活動状況の資料や現状が困っている状況を示す資料が必要であり、この中でも積算基準と乖離していることを建設物価で積算して示すことが重要であり、これらのことについて、事例をもって教示いただきました。広島では、設計価格の 3 分の 1 程度の応札額で落札されるような

事例が多くなり、このことの課題を行政に理解を求め、粘り強く説明する継続した活動が実を結んだわけですが、そこには環境計量の業界活動に不足している部分があるということです。それは、専門技術として分析技術や精度管理の研鑽などといった「内向き」の活動が主体であり、外部に向けた活動が少ないということです。業界に魅力がなく就職希望者が少ないといった声も聞きますが、業界からラボ見学や次世代育成・養成、社会的な認知を得るための活動があるべきという点を指摘されていました。また、固定メンバーでの活動、若年層や女性が少ない活動で楽しめる場が少ないという点の指摘もあり、県単の活動報告を見ても否めない点です。

広環協の率先した事例は、手順や資料の作成など参考になり、有意義な研修でした。しかし、まだ行政への働きかけは途中であり、課題もあるとのことでした。

しめくりに、「三方よし」として「売り手よし」（適正な利益で組織と技術が存続できる）、「買い手よし」（ミスがなく精度が担保された測定・分析が顧客満足につながる）、「世間よし」（人々の安心・安全につながり世の役に立つ業界・業務）というお話があり、一人勝ちするような戦略に次の世代はないと確信しました。

#### 4. おわりに

今回の研修会では、首都圏環協連のとなりの県単である北関東の皆さんにも参集して頂きました。近隣でありながらもひとつのテーマで意見交換することがなかったので、互いの活動は参考になったと思います。研修会の意見でもあった協定の広域化などについては、近隣で検討する契機になったと思います。

最近では、環境分析の測定値がきっかけに建設工事や事業の課題がニュースになることが多く、環境計量証明事業の社会的責任は非常に重く、認識しなければならないと思います。その一方で、廉価要求されるようなことがあっても、説得力がある価格の提示や業務の内容を理解してもらうための「外に向けた」活動に邁進していかなければならないと再認識した研修会でした。

## 東環協からのお知らせ

○平成 28 年度：今後の主要行事予定

- ・今年度の行事は全て終了しました。

○平成 29 年度：今後の主要行事予定

- ・平成 29 年度第 40 回通常総会及び 40 周年記念式典 6 月 1 日(水)に実施予定

○事務局からのお知らせ

- ・平成 29 年度の通常総会は、詳細が確定しましたら、ご案内を差し上げます。

- ・会員の動き(第 163 号(1 月 23 日発行)以降の会員動向を掲載)

### 入会された会員

① 会員区分：賛助会員

会 員 名：三浦工業(株) 三浦環境科学研究所 環境営業部

代 表 者：部長 松木 裕一

連絡担当者：部次長 多菊 太郎

TEL:03-5793-1031 , FAX:03-5793-1040

② 会員区分：賛助会員

会 員 名：大起理化工業(株)

代 表 者：代表取締役 大石 正行

連絡担当者：営業部 課長 齋藤 智則

TEL:048-568-2500 , FAX:048-568-2505

### 退会された会員

① 会員区分：正会員

会 員 名：(株)メイシン

### 現在の会員数 (平成29年 3月現在)

正 会 員 68社

賛助会員 20社 合 計 88社

- ・編集後記

遅くなりましたが、1 月 25 日に開催された技術研修会と同日に行われた賀詞交歓会を中心に編集した平成 28 年度最後の「東環協ニュース」第 164 号を発行致しました。本年も東環協会員の更なる発展のために、事務局として微力ながら尽力していきたいと決意しておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

アジレントのICP-MSは、さらに1桁上を行きます。



## Agilent 7900 ICP-MS

アジレントは7900でICP-MSの究極を追及しました。



### パワフルな性能

- 10倍向上したS/N比：バックグラウンドの低減および感度向上により、超微量レベルの分析が可能
- 10倍向上したマトリクス耐性：25%の飽和食塩水でもルーチン分析が可能
- 10倍広くなったダイナミックレンジ



### ラボの生産性が向上

- ダイナミックレンジが広がったことにより、微量元素から%レベルまで一度の分析で分析可能
- UHMIにより、高いマトリクス試料の導入が可能
- ISISにより、さらにサンプル切り替え時間を短縮可能
- メンテナンス頻度の低減



### パワフルでシンプルなソフトウェア

- ICP-MS MassHunterは、初心者にわかりやすく、かつ研究者が必要とする、多様な機能が搭載
- シンプルで直観的なユーザーインターフェースが、分析をステップごとにナビゲーション
- 独自のメソッドセットアップウィザードが、自動でメソッドを作成
- ICP-MSを、スマートフォンからモニターおよびコントロールすることが可能になり、フレキシビリティが向上

カスタムコンタクトセンター 0120-477-111  
[www.agilent.com/chem/jp](http://www.agilent.com/chem/jp)

アジレント・テクノロジー株式会社 本社 〒192-8510 東京都八王子市高倉町9-1  
TEL.0120-477-111/FAX.0120-565-154 ©Agilent Technologies, Inc. 2016

The Measure of Confidence



Agilent Technologies

# 分析者の皆様へ

分析に最適な超純水をご提供するためにわたしたちエルガは常に純水装置メーカーとしてのこだわりを追求しています

## 求められる水質を得るために

超純水処理をすべて循環経路内で行うことにこだわります

→ 水質劣化を起こす採水口フィルターをお勧めしません

タンク水は必ず循環させること、必ず純水処理してご使用いただくことにこだわります

→ 水質が劣化しているタンク貯留水の使用をお勧めしません

## 安心して使用していただくために

水質表示は採水水質であることにこだわります

→ 製造時（タンクに貯めた時）の水質を表示して誤解を与えることはしません

水質表示はリアルタイムであることにこだわります

→ 採水時とは異なる水質を表示して誤解を与えることはしません

そしてわたしたちエルガは

純水装置・超純水装置の性能も、得られる純水の水質も妥協することなく製品価格の適正化とランニングコストの低減を実現します



これがエルガの  
純水装置メーカーとしての  
こだわりです

ヴェオリア・ジェネッツ株式会社  
エルガ・ラボウォーター事業部

お問い合わせ

〒108-0022 東京都港区海岸 3-20-20 ヨコソーレインボータワー FAX : 03-5441-7071

e-mail : [jp.elga.all.groups@veolia.com](mailto:jp.elga.all.groups@veolia.com) <http://www.elgalabwater.com>



「環境 job.net」フルリニューアル

# 貴社の採用をエコリクで解決！

メール（電話）申し込みで求人広告を簡単掲載！  
応募者は貴社に直接応募！

## 環境分野特化型求人サイト

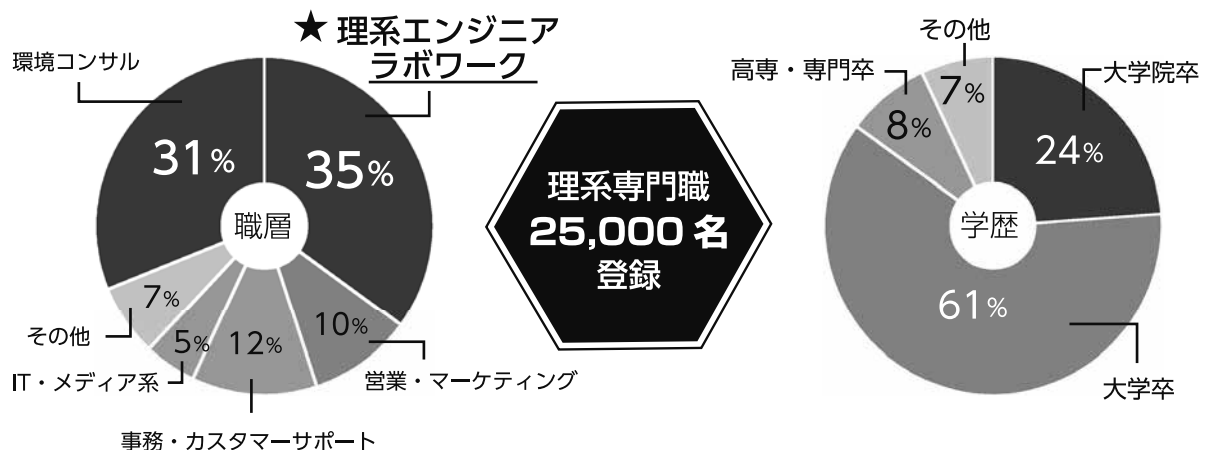
# エコリク

<https://ecoriku.jp>

完全成功報酬型！掲載費用は **0** 円！

**新年度** ラボの人員は **足りていますか？**

『エコリク』は、特に専門性が求められる環境系人材、理系（化学・電気・機械・バイオ等）人材サービス業界において 20 年の実績を持つ業界のパイオニア「グレイス」が運営する求人サイトです。高い専門性を備えたエンジニアやコンサルなど理化学系、理工学系のバックグラウンドを擁する他にはいない人材層が登録しています。



人材派遣、人材紹介のご依頼も承っております。

優良派遣事業者認定取得  
職業紹介優良事業者認定取得

人材派遣 厚生労働大臣許可(派)13-010461  
人材紹介 厚生労働大臣許可 13-ユ-010593

お問合せは ☎ 0120-700-871 E-mail : [info@grace-e.co.jp](mailto:info@grace-e.co.jp)



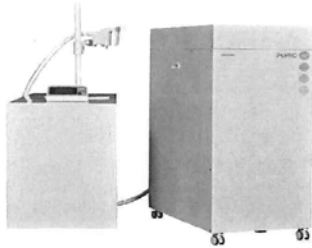
本 社 〒102-0083 東京都千代田区麹町5丁目4番セタニビル5F  
TEL.03-3263-0871 FAX.03-3263-0872 E-mail:info@grace-e.co.jp  
関西支社 〒541-0041 大阪市中央区北浜2-5-13北浜平和ビル  
TEL.06-6223-1961 FAX.06-6223-1965 E-mail:kansai@grace-e.co.jp



# TK 株式会社 東京 科 研

～ ラボ用超純水製造装置のご紹介と当社取扱製品 ～

## 1. オルガノ製ラボ用超純水製造装置



キャビネットタイプ超純水装置  
ピューリック ω (オメガ) シリーズ  
 比抵抗18.2MΩ・cmはもちろん  
 TOC ≤ 1ppb、シリカ ≤ 0.1ppb  
 ホウ素 ≤ 10ppt  
 水道直結型でタンクも内蔵



デスクトップタイプ純水・超純水装置  
PURELAB Chorusシリーズ  
 Chorus1: 超純水製造装置  
 Chorus2: 前処理純水製造装置  
 Chorus3: 前処理RO水製造装置



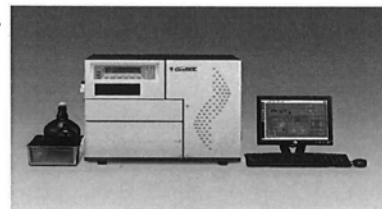
デスクトップタイプ純水・超純水装置  
PURELAB Flex-UV  
 比抵抗18.2MΩ・cmはもちろん  
 TOC ≤ 5ppb  
 酸化UVランプを標準搭載

## 2. 東ソー製液体クロマトグラフィーシステム



- 測定時間5分のハイスループット分析を実現
- 150~200検体の連続多検体処理に対応

イオンクロマトグラフィーシステム IC2010



- 信頼性の高いデータ、安定したベースライン、高い再現性が得られます

高速GPC装置 HLC8320GPC

## 3. エルメックス製食品衛生検査機器



- 空気圧送方式採用
- 2種類の分注(自動希釈、定量分注)モードが可能
- データ出力が可能

自動秤量分注装置 DT cube



- 独自の破碎パドルで破碎力UP
- ホモジナイズ時間が従来品の半分に短縮
- ステンレス製のドアは水洗い出来るサニタリー設計

ホモジナイザー SH-II M

TK オルガノ代理店  
 株式会社 東京 科 研

www.tokyokaken.co.jp

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9

担当: 機器営業部 豊嶋 toyosima-k@tokyokaken.co.jp

【機器営業部】 TEL: 03-5688-7401  
 【神奈川営業所】 TEL: 045-361-5826  
 【千葉営業所】 TEL: 043-263-5431  
 【つくば営業所】 TEL: 029-856-7722  
 【西東京営業所】 TEL: 04-2951-3605

煩雑で面倒な試薬管理の手間、軽減できます！

# 試薬管理システム **SimpReag**

1

試薬の発注、入庫から廃棄までをトータルでサポート。



2

消防法やPRTR制度などの各種法規制に準拠。  
集計もおまかせ！



## SimpReag の特長

3

バーコードや周辺機器連携でスムーズかつスピーディな操作を実現。



4

QRコード等を活用した他システム連携で楽々入庫。



SimpReag を活用することで、例えばこんなことが可能です。

- バーコードやハンディターミナルの活用で、棚卸作業の時間と手間を大幅に削減。修正、集計結果の出力も楽々。
- 入庫時の薬品情報入力の手間が省け、さらに情報の一元化を実現。
- 持出・返却等の履歴が自動で記録されるため、試薬ビンが行方不明になるのを防ぐ。
- 在庫情報がタイムリーに確認できるので、無駄な発注、在庫を削減。

価格や機能等製品の詳細をご希望の方は下記お問い合わせ先までお気軽にご連絡ください。

お問い合わせはこちら！

**NCS**

日本コントロールシステム(株)

<http://www.nippon-control-system.co.jp>

新横浜事業所 ライフサイエンスユニット

〒222-0033

神奈川県横浜市港北区新横浜2-7-9

(TEL)045-477-5800

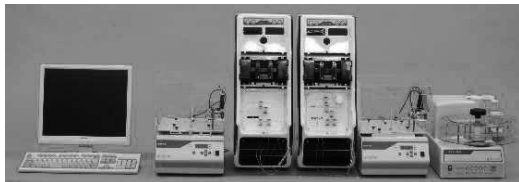
(FAX)045-477-5811

# ビーエルテックの自動化学分析装置

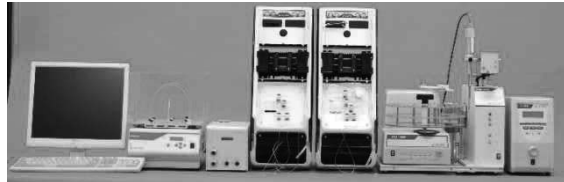
## BLTEC 新型オートアナライザー 「SYNCA」

### ふっ素 シアン フェノール類 全窒素 全りん

- 1 新開発の光学系により測定レンジが広がりました。
- 2 デテクターの向上(24ビット)によりデータ量が多く取り出すことができます。
- 3 ふっ素、シアン、フェノール類の蒸留、発色操作も自動で行えます。
- 4 全窒素全りんのオートクレーブ分解、発色操作も自動で行えます。
- 5 自動洗浄装置装着時、自動プラテンリリースできます。
- 6 国内生産です。
- 7 JISK0102対応メソッドです。1時間20検体測定ができます。
- 8 原理は、気泡分節型連続流れ分析法(CFA)で計量証明機関で多くの実績があります。



SYNCA - ふっ素シアン



SYNCA - 全窒素全りん

2013年9月20日に  
流れ分析水質試験方法(JISK0170)  
が工場排水試験法(JISK0102)に  
収載されました。

2014年3月20日に環境省告示に  
流れ分析法が追加されました。

JIK0102	項目名	JIK0102	項目名
28.1.3	フェノール類	43.1.3 43.2.6	亜硝酸イオン 硝酸イオン
30.1.4	陰イオン界面活性剤	45.6	全窒素
34.4	ふっ素化合物	46.1.4 46.3.4	りん化合物 全りん
38.5	シアン化合物	65.2.6	クロム(VI)
42.6	アンモニウムイオン		

## 全自動酸化分解前処理装置 DEENA

### 特長

1. 試薬を自動で導入できます。
2. 自動で加熱をします。
3. 内部標準も入れられます(オプション)
4. メスアップも自動で行います。



DEENA60  
(50mlバイアル 60本掛け)



DEENAm  
(50mlバイアル 30本掛け)



ビーエルテック株式会社 <http://www.bl-tec.co.jp>

本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-25-7 江戸堀ヤタニビル2F  
TEL:06-6445-2332 FAX:06-6445-2437


東京本社 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町14-15 マツモトビル4F  
TEL:03-5847-0252 FAX:03-5847-0255

九州支店 〒811-3311 福津市宮司浜1-16-10-101  
TEL:0940-52-7770 ※FAXは本社へ

# 塩化銀・分析廃棄物のことなら、 松田産業にお任せ下さい！！

## 1. 塩化銀(COD分析)の買取

分析会社様




COD分析

塩化銀 (AgCl)

→

硝酸銀(液) (AgNO<sub>3</sub>)


松田産業(株)  
武蔵工場




銀製造・販売

★弊社への委託のメリット★

- 銀量、銀相場に応じた買取
- 液状の硝酸銀でも買取可
- 硝酸銀試薬の販売 (塩化銀との相殺OK)
- 少量からでも買取可(1kg~)
- 全国対応可能




¥銀の買取



●硝酸銀の販売 (試薬特級)

## 2. 各種分析工程より発生する廃棄物の適正処理

分析会社様




各種分析


廃棄物

→


・松田産業(株)  
・協力会社




適正処理  
リサイクル



分析廃液



廃試薬



分析機器  
リサイクル

★弊社への委託のメリット★

- 廃棄物の適正処理・リサイクル
- 小口廃棄物の対応可 (少量でも低コスト提案可)
- 全国対応可能 (全国の産廃収運許認可を保有)
- 廃棄物の総合コンサルティング (廃棄物でお困りの際は何でも相談下さい)

### 松田産業株式会社 アーバンリサイクル営業部

<本社> 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号新宿野村ビル6F TEL03-5909-5101

<拠点>

仙台営業所	TEL022-236-3125	名古屋営業所	TEL0562-95-2111
埼玉営業所	TEL04-2900-0131	大阪営業所	TEL06-6475-3301
東京営業所	TEL03-3993-3301	福岡営業所	TEL092-631-1531
神奈川営業所	TEL046-246-2095		

MERCK



アプリケーション超純水  
**Milli-Q® Integral**

選ばれてラボでの  
超純水装置シェア

**70%以上!**

すべての用途に Milli-Q Integral 1 台で対応可能です

各種機器分析

機器分析タイプ



Millipak

HPLC・LC/MS

LCタイプ



LC-Pak



Millipak

環境ホルモン・VOC分析

環境分析タイプ



EDS-Pak



Millipak

ICP-MS分析・半導体洗浄

微量元素分析タイプ



Q-POD Element

細胞培養・遺伝子操作

バイオタイプ



BioPak

タンパク解析

プロテオームタイプ



BioPak



Millipak

メルク株式会社

ライフサイエンス ラボラトリーウォーター事業部

〒153-8927 東京都目黒区下目黒 1-8-1 アルコタワー 5F

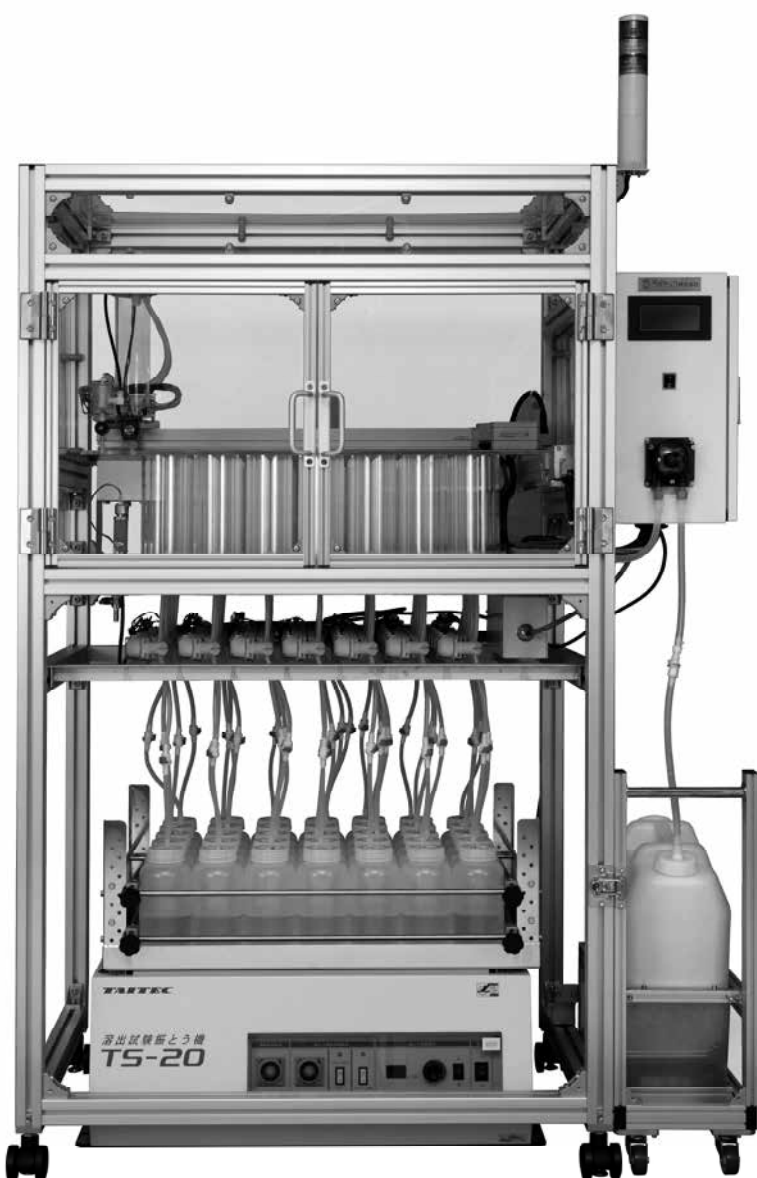
製品の最新情報はこちら [www.merckmillipore.jp/LW](http://www.merckmillipore.jp/LW)

お問合せ ▶ On-Line: [www.merckmillipore.jp/jpts](http://www.merckmillipore.jp/jpts) Tel: 0120-013-148 Fax: 03-5434-4875



# 自動注水振とう装置

## AI-35



### ◆特徴◆

- 工程法に基づいた純水注入、6時間振とうまでの一連作業を完全自動化
- 夜間、休日を利用したスケジュール振とうが可能
- 弊社独自開発の水栓センサーにより注入量を高精度検出

### ◆概要◆

環境庁告示（公定法）では、土壌溶出試験では6時間振とうが揚げられています。本装置は指定した任意の曜日、時刻に振とうを終了するように純水を自動注水及び振とうをおこないます。

### ◆標準仕様◆

#### 作動部

計量槽容量	500ml
純水計量方法	定容器による計量
最大試料数	35検体
計量部動作方法	XY方向の2軸制御
採水採取方法	チューピングポンプによる採取
純水タンク容量	20L
最大予約待機時間	1週間

#### 制御およびその他

制御	シーケンス制御
情報入力	タッチパネル
電源	AC100V 10A
外形寸法	W1240×D750×H1700（表示灯含まず）
重量	約140kg（振とう機含まず）

 **0120-215532**

●受付時間：土、日、祝日を除く9時～17時通話料は無料です。

広島県広島市佐伯区五日市中央4-15-48  
TEL 082(921)8840 FAX 082(921)2226  
URL <http://www.labotec.co.jp>

# LABOTEC

# 人と技術と環境の調和

Harmony among People, Technology, and Environment

## 高圧ガス工業グループ

### 安全

アセチレンガスのトップメーカーとして無事故の実績を水平展開する事によりガスの安全を追及

### 技術

### 安心

事業継続計画(BCP)による高圧ガス工業グループのガス充填工場5ヶ所(首都圏)より安定したガス供給体制

### サービス

高圧ガス工業グループ33カ所(首都圏)体制によるフットワーク

JCSS標準ガス

キャリアガス

非接触型LSIカード

容器管理システム

ネットワークであらゆるニーズにお応えします

特殊塗料

衝撃吸収シート

瞬間接着剤

設計・製作・工事



## 高圧ガス工業株式会社

本社  
東京事務所

大阪府大阪市北区中崎西2丁目4番12号 梅田センタービル28階  
東京都千代田区内幸町1丁目2番1号 日土地内幸町ビル9階  
ホームページ <http://www.koatsugas.co.jp>

TEL:06-7711-2570(代)  
TEL:03-3595-3128(代)